

平成30年8月29日
指導第一課
指導第二課

教科書展示における閲覧者からの質問等について

教科書展示会場の受付場所に設置した質問等を記入する用紙（A6版）に書かれた内容を転記した。

1 質問等記入用紙に書かれた件数

総数 23件

- | | | |
|------------|-------|----------------------|
| ・ 教育センター展示 | : 10件 | (6月18日(月)~7月5日(木)) |
| ・ 小学校展示 | : 1件 | (5月29日(火)~8月9日(木)) |
| ・ 中学校展示 | : 12件 | (5月29日(火)~8月9日(木)) |

2 質問等記入用紙に書かれた内容

(1) 全体を通しての意見・質問

① 採択について

- ・ これから、それぞれの教科書はどのように採択していくのか。
- ・ どのような方々が、採択に向けて検討されるのか。
- ・ 採択に向けて、現場の先生方は、アドバイスや意見など、発言できる場があるのか。一番、子どもたちのことを知って、教壇に立たれていると思うが、子どもたちの目線に立った教科書、強制でない教科書にしてほしい。
- ・ その教科書のおすすめポイント（力を入れているところ）を示してほしい。

② 教科書の内容等について

- ・ 少しでも良い教材を使ってほしい。教え込みやすいものではなく、基本的人権を尊重できるもの、多様な文化、人種と共存できる人間に育てられるもの、平和や民主主義についてきちんと学べるもの、などの内容がしっかり対話できるものが望ましいと思う。
- ・ 道徳的価値を教え込む教科書でなく、子どもたちが考える教科書を採択してほしい。
- ・ 歴史的背景が乏しく、一面的な見方から考えさせる教科書になっているのではないか。
- ・ 日本の子どもたちは、自己肯定感や幸福度が、世界の中でも低いと聞いているので、自分の大切さや個性について考えるような、そして、社会の仕組みの中での自分の行動を話し合えるような教科書を使ってほしい。
- ・ 別冊の使用は、教師にも子どもにも大きな負担となっているのではないか。
- ・ 道徳の教科書はあまりにも重たいので、子どもたちの身体に対する負担をもっと考えるべきだと思った。
- ・ 「二通の手紙」では、「ルールを守ること」が「子どもたちの安全を守ること」になるとの結論を導き出させたいのかと思うが、母親が一人で子育てをしなければならなくなった時、動物園へ連れていくめどもたたないような働き方をせざるをえないことこそ、大きな問題であり、そのことに気付かせたい。

③ 道徳科の評価について

- ・ 道徳を評価の対象にするにあたり、先生方は大変苦労されることと思った。
- ・ 22の徳目を自己評価させるような教科書は、おかしいのではないか。

④ 各発行者の教科書について

○ 東京書籍株式会社について

- ・ 1年生「権利と義務を考えて」は、個人の権利より義務を押しつけている内容になっているのではないか。
- ・ 表紙は、子どもが落ちているように見える。様々な悩みを抱え、不安定な時期の中学生にはふさわしくないイラストではないか。

- ・話し合いの方法など、細かく提示されているが、教師の教え方の自由を奪うのではないか。また、中1、中2でグループ討論、中3で2人組討論をさせるようになっていたが、小学校では2人組討論から始まり、グループへと広げている。逆にしているのは、どのような考えからそうになっているのか。
- 教育出版株式会社について
 - ・1年「都道府県にゆかりのある人物とその言葉」について、戦国武将や勤王の志士(11人・6人)をたくさんとりあげているが、人物評価にはさまざまあるので、適切でない人物もいるのではないか。
 - ・3年「外国から見た日本人」について、広島には1日4千人、日本全体では年間3千万人の外国人が訪れ、外国籍の子も日本の学校にはかなり通っている。日本人でない、子どもたちが答えにくい単元ではないか。グローバルな視点の欠如を感じた。
 - ・3年「外国から見た日本人」では、日本のすばらしさを強調しているが、避難所での女性や、子ども、障がい者、病人などが受けた扱いには全く触れられず、表面的な「すばらしさ」が強調されているのではないか。
 - ・3年「片足のアルペンスキーヤー」の話など、障がい者はがんばらないと、夢をもたないと認めてもらえないと思わせるような教材になっているのではないか。
 - ・3年補助教材の「徳の交わり—西郷どん菅はん」について、歴史的背景に触れていないため、西郷隆盛の人物像について多面的に取り上げた方がよいのではないか。
 - ・3年「それでも僕は桃を買う」では、原発事故による放射能の影響の事実がふれられていないので、そのことについて触れた方がよいのではないか。また、中国籍の子どものことを引き合いに出すべきではないのではないか。
- 学校図書株式会社について
 - ・1年「誰も知らない」「言葉の壁は『日本舞踊』で乗り越えた」は、さまざまな観点から話し合うことができる内容となっていると思った。
 - ・2年「法やきまりを守り、権利や義務を大切に考えて、よりよい社会を築く」は、大人が法や決まりを守らないと、子どもに考えさせられるのか、疑問だと思った。
- 光村図書出版株式会社について
 - ・3年「ぼくのお話 あなたの物語」は、多文化を扱った良い教材だと感じた。
- 日本文教出版株式会社について
 - ・1年「花火に込めた平和への願い」は、グローバル社会を考える良い内容だと思った。
 - ・3年「自分・相手・周りの人」は、性を考える良い教材だと感じた。
- 株式会社学研教育みらいについて
 - ・2年「声援を力に第七十二代横綱稀勢の里」について、現在の相撲界は、外国人力士の活躍によって成り立っている面があり、日本人横綱という面を強調しすぎではないか。
- 日本教科書株式会社について
 - ・歴史的背景が欠如している内容や、教材と関係のないイラスト・写真のものがあるのではないか。
 - ・内容項目ごとに細かく自己評価するのは適切ではないのではないか。
 - ・1年「親子の手紙」「よるこびの歌」について、素敵な教材だと思う一方で、現在は、血のつながらない親子など、本当に多種多様であるため、そういった視点が欠如しているのではないかと思った。
 - ・1年「永久欠番42」について、差別されても自ら声をあげないことを教えるものにならないか心配である。
 - ・1年「大地—八田與一の夢」は、台湾がなぜ日本の植民地支配におかれたのかなど、深い歴史的背景をとともに考えさせたい。
 - ・2年「だから歌いつづける」について、「性同一性障がい」をとりあげたのはプラスだと思うが、性的マイノリティの子のうち、性同一性障がいの子は、ほんの1%にも満たないのではないかと思う。ゲイなど、他の問題も取り上げてほしい。
 - ・2年「雨の日のレストラン」について、残業は尊いものだ、超過勤務を是とする内容は適切ではないのではないか。
 - ・3年「ライフ・ロール」では、男女の役割分掌を固定化する考えで、男女共同参画推進に逆行している記述になっているのではないか。